

都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会  
報告書

平成 31 (2019)年 3 月

都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会



## はじめに

平成28年7月、東京都教育委員会は、有識者、学校関係者等からなる「新国際高校（仮称）設置に係る検討委員会」を設置した。検討委員会では、新国際高校（仮称）設置の基本的枠組みや教育課程編成の基本的な考え方等について検討し、平成29年3月に報告書にまとめた。

報告書の内容を受け、本検討委員会では、国際社会において、地球規模の問題解決に積極的に取り組み、他者と協調しながら、より良い未来を構築する人材を育成するために必要な教育課程の編成や特色ある教育活動、施設・設備等において、議論を重ね、ここに報告書として取りまとめた。

今後、東京都教育委員会が「新国際高校（仮称）」を設置するに当たって、本報告書を参考に、更に具体的な教育課程等の準備を進め、国際社会で活躍できる人材が本校から多数輩出されることを期待する。

平成31(2019)年3月

都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会

# 目 次

第1章 都立新国際高校（仮称）の設置	1
1 これまでの検討経過	1
2 設置の基本的枠組み	2
3 教育理念等	2
4 新国際高校（仮称）の教育	4
第2章 教育課程	5
1 教育課程の基本方針	5
2 教育課程編成の基本的な考え方	5
3 教育課程編成の特色	5
4 設定する教科・科目等	7
5 学校設定教科・科目の内容	8
6 教育課程の編成案	10
7 教育課程の編成例	12
8 その他の教育活動	14
9 新国際高校（仮称）3年間の教育<イメージ>	16
第3章 施設・設備	17
1 考え方	17
2 設置予定場所の概況	17
3 施設の基本計画	17
4 施設一覧	18
参 考 資 料	21
都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会 設置要綱	22
都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会 委員名簿	23
都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会専門部会 設置要綱	24
都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会専門部会 委員名簿	25
都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会における検討状況	26

## 第1章 都立新国際高校（仮称）の設置

### 1 これまでの検討経過

平成28年2月、東京都教育委員会は、「都立高校改革推進計画・新実施計画」において、日本人としての自覚と誇りを備え、国際的に活躍できる人材を育成するとともに、海外帰国児童・生徒や在京外国人児童・生徒の受入れなどを行う、国際色豊かな教育環境を整備することとした。そして、国際高校の入学者選抜の応募倍率が高い状況を踏まえ、都心部に帰国生徒や外国人生徒を受け入れる新国際高校（仮称）の設置を検討することを示した。

このことを受け、平成28年7月、「新国際高校（仮称）設置に係る検討委員会」を設置し、新国際高校（仮称）の設置に向けて、その基本的枠組や教育理念、教育課程等について検討し、平成29年3月、報告書にまとめ公表した。

「都立高校改革推進計画・新実施計画」（平成28年2月 東京都教育委員会）から抜粋

## II 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

### 1 国際色豊かな学校の拡充

#### 現状と課題

- 国際社会で活躍する人材の育成は喫緊の課題であることから、高い語学力や豊かな国際感覚等を育成するための様々な手法を、児童・生徒の状況や地域事情等も見ながら、多様に展開していく必要があります。また、帰国児童・生徒や外国人児童・生徒への対応も必要であり、こうした取組は日本人の生徒の教育環境にもプラスに作用するものと考えられます。

#### 取組の方向

##### (1) 国際色豊かな教育環境の整備

日本人としての自覚と誇りを備え、国際的に活躍できる人材を育成するとともに、帰国児童・生徒や外国人児童・生徒の受入れなどを行う、国際色豊かな教育環境を整備します。

##### ア 新国際高校（仮称）の設置検討

国際高校の入学者選抜の応募倍率が高い状況を踏まえ、日本人としての自覚と誇りを備え、世界に通用する人材を育成するとともに、在京外国人等の教育ニーズにも応える都立高校として、都心部に帰国生徒や外国人生徒を受け入れる国際色豊かな学習環境を整備した新国際高校（仮称）の設置を検討します。

## 2 設置の基本的枠組み

### (1) 設置

国際関係に関する学科を有する専門高校として新国際高校（仮称）を設置する。

### (2) 設置場所

東京都港区白金二丁目（旧東京都職員白金住宅地）に設置する。

### (3) 課程・学科

全日制課程・国際教養学科（単位制）を設置する。

### (4) 学校規模

各学年6学級相当（240人）、計18学級相当（生徒総数720人）の規模を想定する。

### (5) 海外帰国生徒・在京外国人生徒の受入れ

一般枠とは別に、特別枠を設ける。

特別枠の募集人数については、今後、検討する。

### (6) 開校予定年度

基本設計の結果等を踏まえ、できるだけ早期に開校予定

## 3 教育理念等

### (1) 教育理念

国際社会において、地球規模の問題解決に積極的に取り組み、他者と協調しながら、より良い未来を構築する人材を育成する。

### (2) 育成すべき生徒像

- 豊かな教養と論理的思考力をもち、自ら課題を見付け、主体的に分析・判断・行動し、より良く解決することができる生徒
- 自己のアイデンティティを確立させるとともに、多様な価値観を受容しながら、新たな価値を見いだすことができる生徒
- 高いコミュニケーション能力を有し、他者との信頼関係を構築しながら、協力して課題解決に取り組むことができる生徒

### (3) 教育方針の三つの柱

本校の教育理念を踏まえ、以下の3点を教育方針の柱とする。

#### ①<修養 Cultivation>

##### 幅広く豊かな教養を身に付けるリベラルアーツ教育の充実

国際的に活躍できる人材となるためには、理系・文系のような分類に関係なく、幅広く豊かな教養をもつことが重要である。そこで、専門教科「理数」及び専門教科「英語」だけでなく、学校設定教科「リベラルアーツ・国際」を履修させる。これら教科においては、必履修科目の他、多様な選択科目を設定し、生徒が主体的に選択・履修することで、世界で通用する豊かな教養を身に付けさせる。

また、土曜講座を開講し、世界で活躍するトップリーダーから直接学び、対話することなどを通じて、国際的に活躍できる素養を身に付けさせ、国際社会で活躍しようとする意欲を培う。

#### ②<創造 Creation>

##### 論理的思考力等を育成するとともに新たな価値を創出する探究的な学習の充実

修得した教養を活用するとともに、論理的思考力や批判的思考力等を高め、コミュニケーション能力を向上させて、自らの意思により行動し実行できる生徒を育てるために、探究的な学習を充実させる。探究的な学習（Global Issues Lab）においては、生徒個々が設定する地球規模の課題について、科学的に追究させ、その活動の中で、生徒が、国内外の大学や研究機関等との連携やMOOC<sup>1</sup>等の活用、国内外の高校生等との協同研究に積極的に関わることを通じて、多様な価値観を受容し、新たな価値を創出させる。

#### ③<協働 Collaboration>

##### 信頼関係を構築する社会参加・社会貢献等体験活動の充実

ボランティア活動やインターシップ等の体験活動に参加することは、社会人としての素養を身に付けていくに当たり、効果的な教育活動である。

そこで、国内でのボランティア活動やインターンシップ等の活動だけではなく、東南アジア地域等でのボランティア活動等を行う海外スタディツアーを生徒が企画・実施し、その活動を通じて、生徒の国際人としての豊かな人間性を醸成させる。

---

<sup>1</sup> MOOC : Massive Open Online Course は、誰もがインターネットを通じて大学の講義を無料で受講することができる取組【文部科学白書】

## 4 新国際高校（仮称）の教育

### 【教育理念】

国際社会において、地球規模の問題解決に積極的に取り組み、他者と協調しながら、より良い未来を構築する人材を育成する。

### 国際教養学科(単位制)

#### 創造

#### Creation

論理的思考力等を育成するとともに新たな価値を創出する  
探究的な学習の充実

☆生徒個々が設定する地球規模の課題について、科学的に追究する「Global Issues Lab」を設定し、主体的な学習態度を身に付ける。  
☆国内外の大学・研究機関等との連携、MOOC等の活用、国内外の高校生等との協同研究に生徒が積極的に関わり、多様な価値観を 수용して、新たな価値を創出する。

#### 協働

#### Collaboration

信頼関係を構築する社会参加・社会貢献等体験活動の充実

☆国内でのボランティア活動やインターンシップ等を通じて、社会貢献の重要性についての意識を高める。  
☆生徒が企画・実施する東南アジア地域等でボランティア活動等を行う海外スタディツアーを通じて、国際人としての豊かな人間性を醸成する。

#### 修養

#### Cultivation

幅広く豊かな教養を身に付けるリベラルアーツ教育の充実

☆各教科・科目、専門教科「理数」「英語」及び学校設定教科「リベラルアーツ・国際」における多様な選択科目から生徒が主体的に選択・履修することで、世界で通用する豊かな教養を身に付ける。  
☆土曜講座において、生徒が興味・関心のある講座を選択し、自身の知識を広げるだけでなく、世界で活躍する「トップリーダー」から直接学び対話する機会を通じて、国際社会で活躍しようとする意欲を培う。



## 第2章 教育課程

### 1 教育課程の基本方針

教育方針の三つの柱である「リベラルアーツ教育の充実 <修養 Cultivation>」「探究的な学習の充実 <創造 Creation>」「社会参加・社会貢献等体験活動の充実 <協働 Collaboration>」を実現するため、適切な学習内容の配置及び指導を実践する柔軟な教育課程を編成する。

### 2 教育課程編成の基本的な考え方

教育課程の基本方針を踏まえ、以下のことを教育課程編成の基本的な考え方として、具体的な学習内容や活動を設定する。

- 様々な分野で国際的に活躍できる人材を育成するため、多様な進路選択が可能となる教育課程を編成する。
- 幅広い知識と深い教養を習得するため、哲学、地域経済等を学び、思考の基盤を形づくるとともに、豊かな人間性を育成する。
- 様々な体験、探究活動等を通して、日本の歴史や文化への理解を深めるとともに、異文化を理解し尊重する態度、国際的な課題に対峙(じ)する姿勢、意欲を育む。
- 自分の考えを整理し相手に伝えることができる、論理的思考力・表現力、語学力をあらゆる機会に育成するとともに、多様な意見を尊重しつつ、議論を深め合うことで、様々な人々と関係を構築できるコミュニケーション能力を育成する。

### 3 教育課程編成の特色

#### (1) リベラルアーツ教育の充実 <修養 Cultivation>

国際的に活躍できる人材に必要な素養として、幅広く豊かな教養を身に付けておく必要がある。そのためには、いわゆる理系、文系に偏ることなく、学習することが重要である。

そこで、次のような教育を実施する。

#### ア 国際教養学科の設置

豊かな国際社会の構築に資するためには、語学力だけでなく、人文的素養及び科学的素養を身に付け、多文化を理解することが重要である。そこで、専門学科である国際教養学科を設置し、専門教科「理数」及び専門教科「英語」を履修させるとともに、特色ある学校設定教科・科目を設け、国際理解教育を充実させ、世界に通用する教養を身に付けさせる。

#### イ 学校設定教科・科目の設定

学校設定教科（専門教科）として「リベラルアーツ・国際」を設定し、豊かな教養を身に付けさせる。教科で取り扱う分野も幅広いものとし、東京や日本の伝統・文化を理解し、体験活動を通して理解を深める「東京・日本」、環境・科学の分野や地域経済分野等の地球規模の課題について考える科目「Global Issues（以下「GI」という。）」等多くの科目を用意する。

#### ウ 語学力と言語能力の育成

語学力と言語能力の育成を重点事項とし、言語能力を基礎とする深い思考力に支えられた語学力の向上を図る。

国語科については、言語活動を通して、日本語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。また、外国語科については、専門教科「英語」の履修や入学当初の英語合宿において英語力向上の支援を行うほか、第二外国語を必修とするにより、自分の考えを日本語及び英語等で明確に表現できる生徒を育成する。さらに、学校設定教科「リベラルアーツ・国際」の学校設定科目「LCTC<sup>2</sup>」では、論理的思考力や批判的思考力、コミュニケーション能力の向上を図る。

#### エ 内容言語統合型学習（CLIL）の導入

専門教科「英語」以外の教科において、学習内容を英語で学ぶ「内容言語統合型学習」を導入する。特に、教科「情報」の授業は、英語に由来する言葉の多くを取り扱うため、英語で実施する。

#### オ グローバル意識の向上

土曜講座において、世界で活躍するトップリーダーから直接学び、対話する機会を設けることなどで、ロールモデルやキャリアプランの参考とするとともに、国際社会で活躍しようとする意識を高める。

### (2) 探究的な学習の充実 <創造 Creation>

論理的思考力や批判的思考力等を高めるとともに、コミュニケーション能力を向上させ、自らの意思により行動し実行できる生徒を育てるため、探究的な学習に取り組ませる。

#### ア 探究的な学習の設定

探究的な学習の取組を「Global Issues Lab (以下「GIL」という。）」(地球規模の課題の科学的研究)とし、総合的な探究の時間や学校設定教科・科目である「データサイエンス」「言語表現・科学表現」等において実施する。

GILは、三つの段階で構成する。

##### (ア) lab I (探究の型を学ぶ)：1年次

- ・ 探究の知識や技能、分析力等を身に付けるために、理数探究の基礎を学び、探究の基本的知識及び技能を身に付ける。また、多角的、複合的に事象を捉え、課題を解決するための基本的な力や、様々な事象や課題に知的好奇心をもって向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとする態度を養う。
- ・ 課題探究合宿(英語合宿を兼ねる。)を実施し、探究的な学習の見通しをもたせる。

##### (イ) lab II (地球規模の課題追究)：1・2年次

- ・ lab I で身に付けた能力を活用し、生徒個々が設定した地球規模の課題を追究し、解決を図る。
- ・ 国内外の高校生とともに協同研究を実施し、自己の研究をより広い視野で解決できるようにする。

##### (ウ) lab III (アカデミック論文作成(和・英)・研究発表)：3年次

- ・ lab II の結果を和文及び英文で論文として発表し、社会に対する提言や自己の将来における起業につなぐものとする。
- ・ 研究発表として、GIシンポジウム「より良い未来の構築」を、インターネット回線をつなぐなどして、国内外の高校生と合同で実施する。まとめられた研究成果は全員で共有し、更に発展させていく。

<sup>2</sup> LCTC：「Logical thinking, Critical thinking, Communication」のこと。論理的思考や批判的思考、コミュニケーションについての理論を学び、演習を通じて、これらの能力を高める。

#### イ 各段階で育成する能力

##### (ア) lab I (探究の型を学ぶ)

探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を身に付ける。

##### (イ) lab II (地球規模の課題追究)

本格的に探究に取り組む段階においては、各教科・科目で習得した知識・技能を活用するとともに、論理的思考力や批判的思考力、コミュニケーション能力、的確に相手の考え等を導き出せる質問力の向上を図り、課題解決を目指す。

##### (ウ) lab III (アカデミック論文作成 (和・英)・研究発表)

論理的な論文を完成できる文章力や研究発表でのプレゼンテーション力、シンポジウムで議論できる思考力、判断力、表現力を向上させる。

そして、探究的な学習の全過程を通じて、社会に対して提言しようとする意識や自己の将来において起業しようとする意識の向上を図る。

#### ウ 海外教育研究機関等との連携

国内外の大学や研究機関との連携や、MOOC等の世界的な大規模公開オンライン講座の活用により、研究をより深いものとする。

### (3) 社会参加・社会貢献等体験活動の充実 <協働 Collaboration>

国際社会で活躍できる人材となるには、社会参加・社会貢献等体験活動を経験することが重要である。そこで、都立高校で実施している学校設定教科「人間と社会」の体験活動や演習を発展させ、ボランティア活動やインターンシップ活動、創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組みせることで、豊かな人間性や社会貢献の重要性についての意識の向上を図る。1年次には、主に国内で、2年次には、その経験を生かして、東南アジア地域等での海外スタディツアーを生徒が企画・実施する。

## 4 設定する教科・科目等

### (1) 必修修教科・科目

教科	科目 (単位数)
国語	現代の国語 (2), 言語文化 (2)
地理歴史	地理総合 (2), 歴史総合 (2)
公民	公共 (2)
保健体育	体育 (7), 保健 (2)
芸術	音楽 I・II (2・2), 美術 I・II (2・2), 及び工芸 I・II (2・2)のうちから1科目を選択
外国語	第二外国語 I ※ (3)
家庭	家庭基礎 (2)
情報	情報 I (英語による授業) (2)

(※を付した科目は学校設定科目)

- ・ 教科「数学」の科目は、「理数数学 I」で代替する。
- ・ 教科「理科」の科目については、基礎を付した科目の履修及び、「理数物理」、「理数化学」、「理数生物」、「理数地学」で代替する。
- ・ 教科「外国語」の科目は、「総合英語 I」で代替する。

(2) 学校必履修教科・科目（専門科目）（25単位）

教科	科目（単位数）
理数（専門）	理数数学Ⅰ（5）、理数化学（5）
英語（専門）	総合英語Ⅰ（3）、総合英語Ⅱ（4）、 ディベートディスカッションⅠ（2）、エッセイライティングⅠ（2）
リベラルアーツ・ 国際（専門）	データサイエンス※（1）、言語表現・科学表現※（1）、 東京・日本※及びGⅠ哲学・文化※（1）、 LCTC※及び科目「GⅠ」（GⅠ哲学・文化以外から1科目選択）※（1）

（※を付した科目は学校設定科目）

(3) 選択必履修教科・科目（例）（2年次15単位、3年次32単位）

教科	科目（単位数）
国語	論理国語（4）、文学国語（4）、国語表現（4）、古典探究（4）
地理歴史	地理探究（3）、日本史探究（3）、世界史探究（3）
公民	倫理（2）、政治・経済（2）
数学	数学ⅡA※（4）、数学B（2）、数学C（2）
理科	物理基礎（2）、生物基礎（2）、地学基礎（2）、 物理（4）、生物（4）、地学（4）
外国語	第二外国語Ⅱ※（3）
情報	情報Ⅱ（英語による授業）（2）
理数（専門）	理数数学Ⅱ（6）、理数数学特論（3）、 理数物理（5）、理数生物（5）、理数地学（5）
英語（専門）	ディベートディスカッションⅡ（2）、エッセイライティングⅡ（2）、 総合英語Ⅲ（4）、EAP※（2）
リベラルアーツ・ 国際（専門）	GⅠ科学技術※、GⅠ環境科学※、GⅠ地域経済※、GⅠシステム※、 GⅠ防災・安全※、GⅠ共生※

（※を付した科目は学校設定科目）

## 5 学校設定教科・科目の内容

(1) 数学

科目名	対象年次 単位	内容
数学ⅡA	2・3年次 4単位	理数数学Ⅰを履修した者が、数学Ⅱと数学Aの内容において、 不足している部分について学ぶ。

(2) 外国語

科目名	対象年次 単位	内容
第二外国 語Ⅰ	2年次 3単位	外国語学習の特質を踏まえ、4技能（聞くこと、読むこと、話 すこと、書くこと）の言語活動を通して、コミュニケーション を図る基礎となる資質・能力を一体的に育成する。取り扱う言 語は、フランス語、中国語、スペイン語等が考えられる。
第二外国 語Ⅱ	3年次 3単位	第二外国語Ⅰで選択した言語について、Ⅰとの関連を考慮し、 4技能の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・ 能力を一体的に向上させる。

## (3) 英語 (専門)

科目名	対象年次 単位	内 容
E A P	2・3年次 2単位	E A Pは、English for Academic Purposes のこと。英語のスキルを向上させるとともに、そのスキルを海外大学の授業でどのように生かすかを学ぶ。アカデミックな論文の読解、レポートの書き方、プレゼンテーション等の授業内容を通じて4技能5領域の資質・能力を一体的に向上させる。

## (4) リベラルアーツ・国際

科目名	対象年次 単位	内 容
データサイエンス	1年次必 1単位	統計学の知識・技能やICTスキルを身に付け、データの多角的な分析方法を学び、活用できるようにする。
東京・日本	1年次必	「江戸から東京へ」及び「Welcome to Tokyo」を活用し、東京や日本の伝統・文化を理解し、体験活動を通じて深める。
言語表現・科学表現	2年次必 1単位	古典的作品から普遍的価値観を見だし、対話を通じて、課題解決について思考する。また、音楽や美術といった芸術教科と、理科等の他教科を融合させることで、芸術的素養と論理的思考力を高める。
L C T C	2年次必	L C T C は、Logical thinking , Critical thinking , Communication のこと。論理的思考や批判的思考、コミュニケーションについての理論を学び、演習を通じて、これらの能力を高める。
G I 哲学・文化	1年次必	哲学や文化（古典、伝統、現代、生活、芸術、科学技術等）について、地球規模の課題として捉え、学び、考え、協議する。
G I 科学技術	2・3年次	A I やロボティクス等最先端の科学技術について、地球規模の課題として捉え、学び、考え、協議する。
G I 環境科学	2・3年次	自然環境や社会科学的事象等について、地球規模の課題として捉え、学び、考え、協議する。
G I 地域経済	2・3年次	国際経済や地域経済について、地球規模の課題として捉え、学び、考え、協議する。
G I システム	2・3年次	地球規模の課題解決を目指している国際機関やNGO等の取組について学び、考え、協議する。
G I 防災・安全	2・3年次	防災や安全について、地球規模の課題として捉え、学び、考え、協議する。
G I 共生	2・3年次	異文化の理解だけではなく、多文化が共生できる国際社会の在り方について、地球規模の課題として捉え、学び、考え、協議する。

## 6 教育課程の編成案

- (1) 1年次は生徒全員が共通の科目を履修し、2・3年次は選択必修科目を設定する。
- (2) 全生徒に履修させる専門教科・科目は、1年次17単位、2年次で8単位を履修し、計25単位とする。
- (3) 「理科」に関する科目の履修については、1年次に専門科目「理数化学」を全生徒に履修させる。2・3年次においては、次の三つのうちのいずれかの選択とし必ず履修するものとする。
  - ① 専門科目「理数物理」、「理数生物」、「理数地学」のうちから2科目選択
  - ② 「物理基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」のうちから1科目選択、専門科目「理数物理」、「理数生物」、「理数地学」のうちから1科目選択
  - ③ 「物理基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」のうちから2科目選択
- (4) 学校設定教科・科目「リベラルアーツ・国際」の履修については、次のとおりとする。
  - 1年次では、「データサイエンス」、「東京・日本」及び「G I 哲学・文化」を全生徒に履修させる。
  - 2年次では、「言語表現・科学表現」で1単位、「LCTC」及び科目「G I」（G I 哲学・文化以外から1科目選択）で1単位、合計2単位を全生徒に履修させる。
  - 3年次では、科目「G I」のうち、1年次及び2年次に履修していない科目の選択により、合計2単位を必ず履修させる。なお、単位数は、各学年2単位、合計6単位とする。

(5) 教育課程案

1年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
現代の国語②		言語文化②		地理総合②		歴史総合②		理数化学⑤					体育②		保健①	芸術Ⅰ②		家庭基礎②		情報Ⅰ(英語)②		理数数学Ⅰ⑤					総合英語Ⅰ③		デイバート デイスカッションⅠ②		データサイエンス※①	東京・日本※及びGⅠ哲学・文化※①	総合的な探究の時間①	LHR①	

2年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
公共②		体育③		保健①		芸術Ⅱ②		第二外国語Ⅰ※③			総合英語Ⅱ④				エッセイ ライティングⅠ②		理数物理⑤ 理数地学⑤		理数生物⑤ 2科目選択		選択必修履修⑮					言語表現・科学表現※①	LCTC及びGⅠ選択※①	総合的な探究の時間①	LHR①						
													物理基礎② 地学基礎②		生物基礎② 1科目選択																				
											理数物理⑤ 理数地学⑤		理数生物⑤ 1科目選択																						
											物理基礎② 生物基礎② 地学基礎②		2科目選択																						

3年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
体育②																選択必修履修⑳							GⅠ選択※②	総合的な探究の時間①	LHR①										

○の数字は単位数 ※を付した科目は学校設定科目





例3 海外大学で学ぶ際に必要となる科目をより深く学びたい生徒

- 専門教科「理数」（理数理科1科目）、教科「理科」の基礎を付した科目2科目及び専門教科「英語」（全科目と学校設定科目「EAP」）を履修

2年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
公共②			体育③		保健①		芸術Ⅱ②		第二外国語Ⅱ※③			総合英語Ⅱ④			エッセイライティングⅠ②				理数数学Ⅱ⑥					生物基礎②			論理国語④			地理探究③			言語表現・科学表現※①	LCTC及びGI選択※①	総合的な探究の時間①	LHR①

3年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
体育②			国語表現④				古典探究④				世界史探究③			理数数学特論③		地学基礎②		倫理②		情報Ⅱ（英語）②		ディベートディスカッションⅡ②		エッセイライティングⅡ②			総合英語Ⅲ④		EAP※②			GI選択※②	総合的な探究の時間①	LHR①	

○の数字は単位数 ※を付した科目は学校設定科目

例4 様々な科目を幅広く学びたい生徒

- 専門教科「理数」（理数数学Ⅰと理数理科1科目）、教科「数学」の学校設定科目「数学ⅡA」、教科「理科」の基礎を付した科目2科目、専門教科「英語」（全科目）を履修

2年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
公共②			体育③		保健①		芸術Ⅱ②		第二外国語Ⅰ※③			総合英語Ⅱ④			エッセイライティングⅠ②			数学ⅡA※④		数学B②				論理国語④			日本史探究③		地学基礎②			言語表現・科学表現※①	LCTC及びGI選択※①	総合的な探究の時間①	LHR①

3年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
体育②			文学国語④				古典探究④				世界史探究③		政治・経済②		数学C②		生物基礎②		第二外国語Ⅱ※③		情報Ⅱ（英語）②		ディベートディスカッションⅡ②		エッセイライティングⅡ②			総合英語Ⅲ④			GI選択※②	総合的な探究の時間①	LHR①		

○の数字は単位数 ※を付した科目は学校設定科目

## 8 その他の教育活動

### (1) 土曜講座の開講

授業以外にも様々な知識、教養を習得することができる機会として、土曜講座を開講する。大学や専門機関、企業等とも連携し、最先端の科学技術に関する講座をはじめ、哲学や思想等の人文関係の講座、アジア言語等の第三外国語を学べる講座、表現や芸術を扱う講座等幅広い分野の講座を設け、生徒が興味のある内容について、直接専門家から指導を受けられるようにする。

さらに、トップリーダー講座を設定し、ビジネスや研究等様々な分野において国内の第一線で活躍している方々を招き、講演を聞いたり、生徒がインタビューを行ったりすることで、生徒のキャリア意識や、学ぶことに対する意欲の向上を図る。

### (2) ガイダンス機能の充実

生徒が自己の資質や能力を最大限に伸ばし、主体的に課題の解決を図り、国際社会で活躍できるようになるには、充実した学校生活を送る必要がある。

そこで、生徒の能力や興味・関心、進路希望を踏まえ、学校生活での目標設定や計画、適切な教科・科目の選択、進路選択等への情報提供や指導・支援を通じて、生徒一人一人がより良い将来設計ができるよう、ガイダンス機能の充実を図る。

### (3) 海外大学への進学支援

#### ア 取組内容

##### ○ 選択科目の設定

専門教科「英語」において、「ディベート・ディスカッションⅡ」、「エッセイライティングⅡ」、「総合英語Ⅲ」等、より高度な科目を設定し、生徒が自身の希望する進路や能力等に合わせて選択できるようにする。

また、海外の大学で必要なスキルである、学術論文の読解、レポートの書き方等を学ぶことができる科目「EAP」を設定する。

##### ○ 土曜講座の開講

土曜講座において、SAT、TOEFL等の試験に向けた対策講座、エッセイ作成講座等、海外大学進学に向けた各種講座を開講する。

##### ○ 海外大学進学セミナー・海外大学体験ツアーの実施

海外大学進学に関心のある生徒を対象に、海外大学進学の概略や留学準備プロセスの説明、経験者の体験談等、海外大学進学についての理解を深めるセミナーを開催する。

また2年次には希望者に対し、海外大学の授業を実際に体験することのできるツアーを実施する。

##### ○ 個別カウンセリング・出願準備サポートの実施

海外大学進学に向けて、個別カウンセリングを実施するほか、エッセイや推薦書等出願書類の作成に向けたアドバイス、情報提供を行う。

##### ○ その他

在学中の海外留学（次世代リーダー育成道場等）や英語ディベート大会等の参加について、学校として推奨し、情報提供等、積極的な支援を行う。

#### イ 支援体制の充実

##### ○ 校務分掌の設置

海外への留学や大学進学への支援に係る取組の計画や運営等を担当する校務分掌を設け、生徒の留学・進学に向けた支援が円滑に行える体制を構築する。

##### ○ J E T等外国人指導者の配置・活用

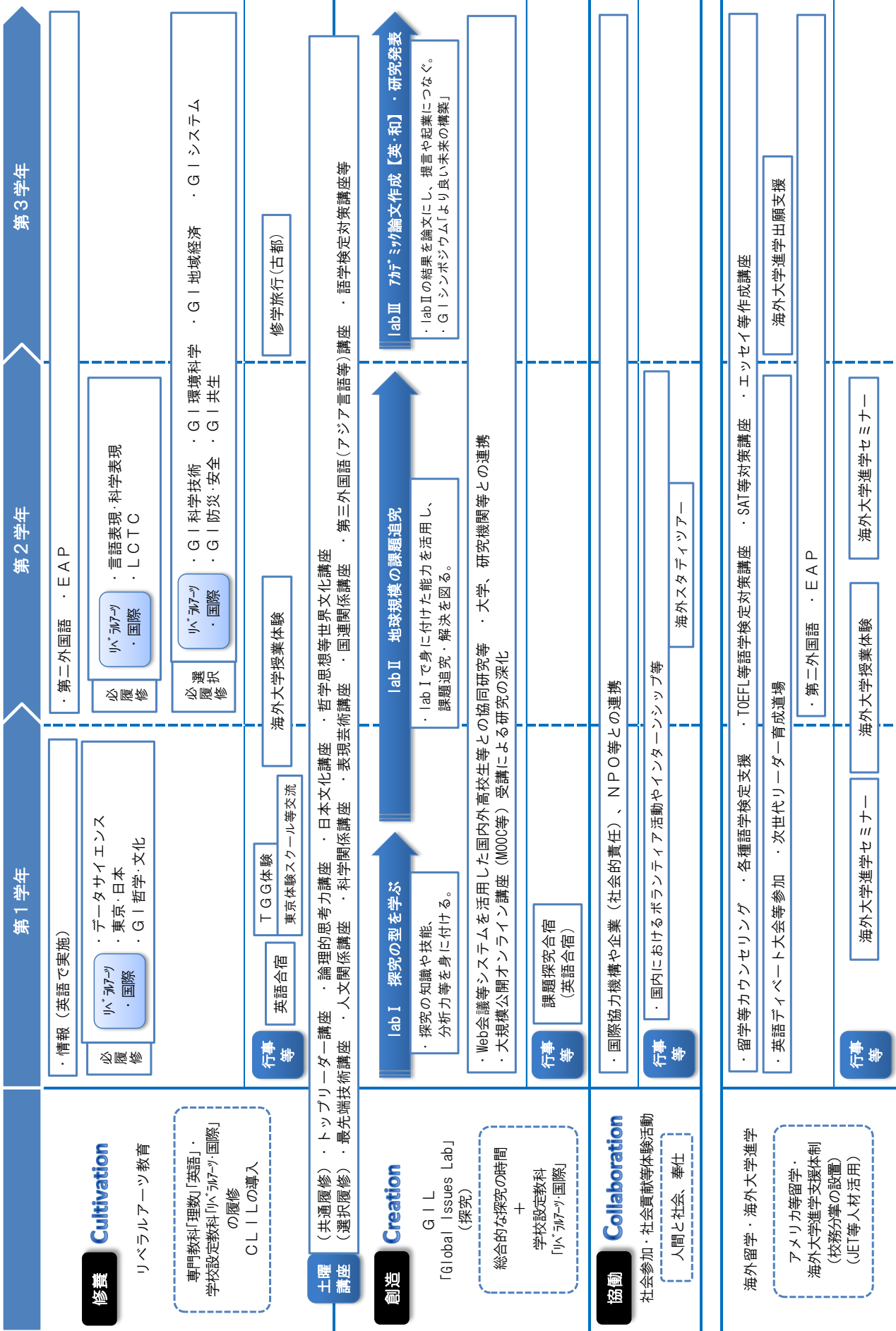
J E TやA L T等外国人指導者を配置し、日常的に英語を使用する環境をつくっていくほか、生徒のエッセイや論文の添削、ディベート大会等各種コンテストへの参加支援、C L I Lによる授業実施等の取組を行い、生徒の語学力を向上させる。

また、J E TやA L T等外国人指導者から海外での生活や大学進学等について話を聞く機会を設けることにより、生徒の留学・海外進学に向けた意欲を向上させる。

#### (4) 海外帰国生徒・在京外国人生徒への学習支援

特別枠を設けて、海外帰国生徒・在京外国人生徒を受け入れることから、日本語力が十分でない海外帰国生徒及び在京外国人生徒のために、日本語を指導できる体制等について検討していく必要がある。

# 9 新国際高校（仮称）3年間の教育（イメージ）



TGG: 「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の略。児童・生徒が英語を使用する楽しさや必要性を体感でき、英語学習の意欲向上のきっかけ作りとなる環境を整備することを目的として、東京都教育委員会が民間事業者と協働し、平成30年に開設した施設

## 第3章 施設・設備

### 1 考え方

都立新国際高校（仮称）の教育理念や教育課程に関する検討結果を踏まえ、国際的に活躍できる人材を育成するための特色ある教育を可能とする施設・設備を整備する。

### 2 設置予定場所の概況

- (1) 所在地は、都営地下鉄三田線・東京メトロ南北線「白金高輪駅」から徒歩2分、都営地下鉄三田線・東京メトロ南北線「白金台駅」から徒歩10分、都営地下鉄浅草線・京浜急行電鉄「泉岳寺駅」から徒歩15分の場所に位置している。
- (2) 敷地面積は19,720.46㎡あるが、大きな高低差がある。以前は、東京都職員白金住宅地として利用されてきたが、現在は住宅等が解体されている。
- (3) 敷地の西側には、高層マンションや低中層マンション、寺院などが混在している。  
また、敷地の東側は国道1号（桜田通り）に面しており、道路を隔てた向かい側には、高輪区民センターや港区立高松中学校がある。

### 3 施設の基本計画

#### (1) 施設整備方針

土地の一部を造成してグラウンドを確保するとともに、校舎等を新設する。その際、土地の形状を踏まえながら生徒の動線等を検討し、より使いやすく効率的な活動ができる施設を整備していく必要がある。また、校舎等の新設に当たっては、時代に即した教育活動が行えるように、既存の発想にとらわれずに施設を工夫していく必要がある。

なお、都立新国際高校（仮称）の生徒が、学校生活の様々な場面においてICT機器を活用していくことから、デジタルデバイスを生徒1人1台以上使えるようにするとともに、校内のどこにおいてもそれらを利用できる情報通信環境を構築する。あわせて、クラウドコンピューティングや、AI、VR等最先端技術を活用した機器の導入についても検討していく必要がある。

また、教室外でも様々な学習活動がいつでも活発に行えるようなオープンスペースを校内各所に整備する。

#### (2) 主な施設・設備の整備内容

ア 英語や第二外国語、専門教科「理数」の科目等、特色ある教科・科目において、少人数・習熟度別授業を行うために必要な講義室等を整備する。

なお、多様な学習集団に対応できるよう可動間仕切りを設置する等、柔軟な空間構成であることが望ましい。

イ 生徒が自主的な学習や探究活動を行うための拠点として、図書館、自習スペース及びディスカッション等に活用できるオープンスペースが一体となったラーニング・コモンズを整備する。

なお、ラーニング・コモンズは、外国語図書や国内外の古典的作品等の書物をそろえるとともに、自習スペースやオープンスペースにはパソコンや無線LAN等の環境を整備す

ることにより、生徒が主体的な学びや効率的・効果的な探究活動が行えるようにする。

ウ 海外の高校との合同授業や大学等教育機関との連携（講義、演習、指導・助言、教員研修等）を可能とするため、大型プロジェクターを複数台設置した、双方向通信が可能なオンライン会議型の視聴覚室（ワールドオンラインルーム（仮称））を整備する。

エ 外国人指導者等が常駐し、生徒間交流や留学生等との交流が可能となるオープンスペースを整備する。

オ 教員、経営企画室職員及び講師等が相互に機能的な連携を確保できるよう、執務場所を一体化した校務センター（仮称）の設置を検討する。

なお、校務センター（仮称）を設置する場合は、情報管理について配慮する必要がある。

カ G I Lや土曜講座等において、多くの外部人材の活用が想定されることから、講師等が授業準備や打合せを行うことができる十分なスペースを確保する。

なお、施設・設備については、上記に限らず、施設や設備機器の進化、授業形態等、教育環境の変化に合わせ、より効果的・効率的に教育活動を行える整備内容を検討する。

#### 4 施設一覧

都立新国際高校（仮称）に設置することが望ましい主な施設・設備について、以下のとおり例示する。

分野	室名	室数	備考（該当教科・科目等）
管理	校長室兼応接室	1	
	書庫	1	
	保護者控室	1	
	放送室	1	
	印刷室	1	
	備蓄倉庫	1	
	試験問題作成・保管室	1	
教職員	校務センター（仮称）	1	職員室、経営企画室、講師控室を統合
	技能主事室	1	
	会議室	2	大小別
	教職員更衣室	2	休養室を兼ねる。
	教材室	1	
進路指導	進路指導室	1	留学・進学カウンセリング等の実施
	進路相談室	1	海外進路情報の提供
生活指導	生徒相談室	1	
	カウンセリング室	1	

分野	室名	室数	備考（該当教科・科目等）
保健	保健室	1	
	生徒更衣室	2	
ホームルーム	普通教室	18	
講義室等	講義室	11	少人数・習熟度別授業等の実施
	日本語指導用教室	1	外国人生徒対応
共用	生徒交流スペース	1	JET 等待機スペースを含む。
	作法室（和室）	1	東京・日本
	多目的ホール	1	土曜講座（トップリーダー講座、哲学思想等世界文化講座等における大学教授等の講義）、GI シンポジウム等で活用
特別教室	物理室・準備室	1	物理基礎、物理、理数物理
	化学室・準備室	1	理数化学
	生物室・準備室	1	生物基礎、生物、理数生物
	地学室・準備室	1	地学基礎、地学、理数地学
	実験準備室・保管庫	4	
	CALL 室・準備室	1	総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ディベートディスカッションⅠ・Ⅱ、第二外国語Ⅰ・Ⅱ、EAP、情報Ⅰ・Ⅱ
	PC 室・準備室	1	情報Ⅰ・Ⅱ、データサイエンス
	音楽室・準備室	1	音楽Ⅰ・Ⅱ
	美術室・準備室	1	美術Ⅰ・Ⅱ
	工芸室・準備室	1	工芸Ⅰ・Ⅱ
	調理室・準備室	1	家庭基礎
	被服室・準備室	1	家庭基礎
図書	ラーニング・commons	1	図書館、図書管理室（司書室を兼ねる。）、自習室、ディスカッションスペースを含む。 【主な活用】 ○探究活動（GIL）における調査研究・協議等 ○大規模公開オンライン講座（MOOC 等）の受講
視聴覚	ワールドオンライン ルーム（仮称）	1	視聴覚室・準備室 国内外の高校生との共同授業等の実施
体育施設	体育館	1	
	柔道場	1	
	剣道場	1	

分野	室名	室数	備考（該当教科・科目等）
体育施設	トレーニング室	1	
	ステージ	1	
体育施設	プール	1	
	付属室		体育教官室、器具庫、シャワー室、便所等
	プール付属室		プール監視室、器具庫、シャワー室、便所等
生徒会室等	生徒会室	1	
	生徒部室	8	



## 参 考 资 料

## 都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会 設置要綱

### （設置）

第1 都立新国際高校（仮称）の基本計画を検討するため、東京都教育委員会に都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### （所掌事項）

第2 委員会は、次に掲げる事項について検討し、その結果を東京都教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告する。

- （1）教育課程の編成及び教育内容・方法に関すること。
- （2）施設・設備に関すること。
- （3）その他検討を要すること。

### （構成）

第3 委員会は、学識経験者等、港区教育委員会関係者、東京都立高等学校関係者及び東京都教育委員会関係者の中から、教育長が任命又は委嘱する者をもって構成する。

### （委員長等）

- 第4 委員会には委員長を置き、教育庁教育改革推進担当部長の職にある者をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を主宰し、会務を統括する。
  - 3 委員会には副委員長を置き、教育庁指導部長の職にある者をもって充てる。
  - 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が不在のときには、その職務を代理する。

### （設置期間）

第5 委員会の設置期間は、委員会が設置された日から平成31年3月31日までとする。

### （専門部会の設置）

第6 委員会に、専門的事項を調査検討するための専門部会を置く。

### （庶務）

第7 委員会の庶務は、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課が担当する。

### （意見聴取）

第8 委員会は、必要に応じて委員以外の学識経験者等の意見を聴取することができる。

### （会議及び会議記録）

第9 委員会の会議及び会議記録は、原則として非公開とする。

### （その他）

第10 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関する事項は、委員長が定める。

### 附則

この要綱は、平成30年6月22日から施行する。

都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会 委員名簿

	氏名	職名	備考
学識経験者等	梅本 真司	独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局次長（国内・課題担当）	
	野中 繁	武蔵野大学教育学部児童教育学科教授	
	藤田 保	上智大学言語教育研究センター教授	
港区教育委員会関係者	松田 芳明	港区教育委員会事務局学校教育部教育指導課長	
学校関係者	米村 珠子	東京都立国際高等学校統括校長	
	萩原 聡	東京都立西高等学校統括校長	
東京都教育委員会関係者	江藤 巧	東京都教育庁都立学校教育部長	
	増田 正弘	東京都教育庁教育改革推進担当部長	委員長
	宇田 剛	東京都教育庁指導部長	副委員長
	藤井 大輔	東京都教育庁指導推進担当部長	
	安部 典子	東京都教育庁人事部長	
	飯島 昌夫	東京都東部学校経営支援センター所長	

## 都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会専門部会 設置要綱

### （設置）

第1 都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会設置要綱第6の規定に基づき、都立新国際高校（仮称）の教育課程、施設・設備等の専門的事項に関することを検討するため、専門部会を設置する。

### （所掌事項）

第2 専門部会は、都立新国際高校（仮称）に関し、次に掲げる事項について専門的、具体的に検討し、その結果を都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会に報告する。

- （1）設置する教科・科目など教育課程の編成及び教育内容・方法に関すること。
- （2）施設の配置、特色など施設・設備に関すること。
- （3）その他検討を要すること。

### （構成）

第3 専門部会は、東京都教育委員会関係者の中から、東京都教育委員会教育長が任命する者をもって構成する。

### （部会長等）

第4 専門部会に部会長及び副部会長を置き、教育庁都立学校教育部教育改革推進担当課長の職にある者をもって充てる。

- 2 部会長は、専門部会を主宰し、会務を統括する。
- 3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長が不在のときは、その職務を代理する。

### （設置期間）

第5 専門部会の設置期間は、専門部会が設置された日から平成31年3月31日までとする。

### （庶務）

第6 専門部会の庶務は、教育庁都立学校教育部高等学校教育課が担当する。

### （意見聴取）

第7 専門部会は、必要に応じて学識経験者等の意見を聴取することができる。

### （会議及び会議記録）

第8 専門部会の会議及び会議記録は、原則として非公開とする。

### （その他）

第9 この要綱に定めるもののほか、専門部会の運営に関する事項は、部会長が定める。

### 附則

この要綱は、平成30年6月22日から施行する。

都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会専門部会 委員名簿

	氏名	職名	備考
東京都教育委員会関係者	西山 公美子	東京都教育庁総務部企画担当課長	
	星 政典	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	
	宇高 章広	東京都教育庁都立学校教育部都立高校改革企画調整担当課長	
	福井 紀子	東京都教育庁都立学校教育部教育改革推進担当課長	部会長
	野村 公郎	東京都教育庁都立学校教育部教育改革推進担当課長	副部会長
	鈴木 友幸	東京都教育庁都立学校教育部施設調整担当課長	
	瀧沢 佳宏	東京都教育庁指導部国際教育推進担当課長	
	佐藤 聖一	東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	
	小林 正人	東京都教育庁指導部高校教育改革担当課長	
	滝沢 毅	東京都教育庁人事部人事計画課長	
	南 和男	東京都東部学校経営支援センター学校経営支援担当課長	

都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会における検討状況

	開催日	主な議事内容
第1回	平成30年 7月30日	・ 特色ある教育活動
第2回	9月19日	・ 特色ある教育活動の具体的な取組内容 (1) 探究的な学習（案） (2) 教科・科目等（案） (3) 海外大学進学等支援
第3回	11月 2日	・ 教育課程 ・ 都立新国際高校（仮称）の施設・設備
第4回	12月21日	・ 報告書（案）

<事務局>

氏名	職名
福井 紀子	東京都教育庁都立学校教育部教育改革推進担当課長
野村 公郎	東京都教育庁都立学校教育部教育改革推進担当課長
岩本 幹	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（教育改革推進担当）
菊池 佑介	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事

